

ふりがな氏名	あさかわ ゆうこ	都道府県	京都府	
	浅川 裕子			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都大学教育学部</li> <li>・アマル(きぼう)プロジェクト / 幹部</li> </ul>			
私のESD活動	<b>外国につながるのある子どもたちの学びを保障するための地域連携活動</b>			
関心・活動のSDGs	   			

## 活動の概要

〈活動概要〉 関西には、2016年に紛争地から避難してきた家族が暮らす地域があります。ここには約10名の児童がおり、日本語や日本の学校文化が全く分からない状態で公立小学校に通っていました。この状況を受けて、難民支援系学生団体から有志を募り、「アマル(きぼう)プロジェクト」を結成しました。プロジェクトでは、月2回の日本語学習教室を行うとともに、地域行事に参加して住民との交流を促進しました。2018年からは、子どもたちのニーズの変化に応じて活動内容を変更し、進路支援教材の作成と国際交流協会と協働した外国につながるのある子どもたちとの交流事業の運営に取り組んでいます。

〈先駆的な取り組み〉 ①協働的な学習支援…学生ボランティアや受入れ地域の近隣住民、行政、日本語教育の専門家等の様々な協力者を巻き込んだ支援体制の構築。

②「やさしい日本語」での進路指導資料…日本での定住の意思を受けて、児童が日本での将来設計の参考となる資料を作成した。児童と保護者が読める「やさしい日本語」を用いて様々な職業とキャリアモデルの紹介。

〈成果〉 ①協働的な学習支援による協調効果…国際交流協会との協働により、多様な国のルーツを持つ児童との交流が実現した。今後、職業体験施設への校外学習が実施される予定。

②他地域へのインパクト…UNHCRより他の難民コミュニティにも活動が紹介された。今後は類似のニーズを持つ子どもたちに、進路指導教材の提供を予定。

・UNHCR 駐日事務所「5. 4. 若者による取り組み 地域における定住促進プロジェクト」『難民との対話から聞こえてきた声—AGDM PA 2016年度サマリー』 [http://www.unhcr.org/jp/wp-content/uploads/sites/34/2017/11/AGDM-PA-2016\\_1020\\_final.pdf](http://www.unhcr.org/jp/wp-content/uploads/sites/34/2017/11/AGDM-PA-2016_1020_final.pdf)

## 今後の活動の展望と周囲や社会への還元

私は、コンファレンスへの参加を通して、日本各地で様々な活動をする参加者のみなさんから、多くのアイデアを得て、互いに協力できる関係を築きたいと考えています。そして、自分の活動を以下のように発展させたいと考えています。

まず、「アマル(きぼう)プロジェクト」での活動は、2018年度を持って発展的に解消することが予定されています。活動の成果を類似のニーズを持つ他の地域にも共有するための報告会や報告資料の作成、活動地域での持続的な支援体制の構築に尽力します。

現地域での活動は終了するものの、昨今の外国人労働者の受入れ拡大の動向を受けて、地方自治体の外国人受け入れ体制の構築は急務であると考えます。来年度から勤務する機関は、日系移民の受入れ事業を実施した数多くの知見や日本各地に地域拠点とパートナーを持ちます。したがって、先行事例から知見を得ると共に、地域や外国人のニーズに応じた包摂的な受け入れ体制の構築に尽力します。

また、来年度からは職務を通して、主に技術教育・職業訓練の分野における、特にSDGs4と8に関わる教育政策の策定とプロジェクト立案を通して、途上国の発展に寄与したいと考えます。